

## 裴崢名誉教授略歴

### (学 歴)

- 1977年 1月 中国四川大学外国語学部卒業  
 1982年 7月 中国北京外国語大学大学院現代日本語研究科修士課程修了  
 1989年 3月 北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了  
 1992年 3月 同博士後期課程修了

### (学 位)

- 1995年 3月 博士（教育学 北海道大学）

### (職 歴)

- 1977年 2月～1980年 8月 中国湖北省外事弁公室外事課 日本部門担当  
 1982年 9月～1986年 5月 中国人民警官大学日本語教研室 専任講師  
 1992年 4月～1998年10月 小樽商科大学言語センター 助教授  
 1998年10月～2015年 3月 同 教授  
 2015年 4月～2017年 3月 同 特任教授  
 2017年 3月 同 定年退職  
 2017年 4月 小樽商科大学 名誉教授

## 裴嶸名誉教授研究業績表

### 共 著

「助動詞『タ』について」 札幌大学教養部赤坂ゼミナール「外国語としての日本語研究」 1988年

### 論 文

- 1 「塵中に生きた女の尊厳— 一葉の『にぎりえ』と老舎の『三日月』について」 財団法人希望ヶ丘育英文化財団設立五周年記念誌「希望ヶ丘の灯」 1987年
- 2 「蜜柑のぬくもり—芥川龍之介の『蜜柑』について—」 北海道大学教育学部「教授学の探究」第6号 1988年
- 3 「井伏鱒二の『鯉』、『山椒魚』の作品分析—エンプソンの理論にもとづいて—」 北海道大学「教育学部紀要」56号 1991年
- 4 「ペーソスを交えたユーモアについて」 北海道大学教育学部「教授学の探究」第10号 1992年
- 5 「中国における日本語教育—『読解』指導の問題点」 小樽商科大学「人文研究」第85輯 1993年
- 6 「『驢馬の声』（安岡章太郎）の作品分析」 小樽商科大学「人文研究」第86輯 1993年
- 7 「『蜜柑』をどう教えるか」 小樽商科大学「人文研究」第87輯 1994年
- 8 「表現を分析するねらい」 小樽商科大学「人文研究」第89輯 1995年
- 9 「大学生に芥川龍之介『蜜柑』の読みを指導する試み」 小樽商科大学「人文研究」第90輯 1995年
- 10 「表現課題による日本文学作品の読みの指導に関する研究」（博士論文要旨） 北海道大学「教育学部紀要」69号 1995年
- 11 「文学作品の読みの指導方法としての表現課題方式」 北海道大学教育学部「教授学の探究」第13号 1996年
- 12 「中日この百年」 小樽商科大学「言語センター広報」第4号 1996年
- 13 「子年の願い」 小樽商科大学「言語センター広報」第4号 1996年
- 14 「『山椒魚』の指導に向けて—作品の分析」 小樽商科大学「人文研究」第92輯 1996年
- 15 「『山椒魚』の指導過程構成の試み」 小樽商科大学「人文研究」第93輯 1997年
- 16 「『鯉』をどう読むか」 小樽商科大学「人文研究」第94輯 1997年
- 17 「『鯉』をどう教えるか」 小樽商科大学「人文研究」第95輯 1998年
- 18 「中国の学校を覗いて」 小樽商科大学「言語センター広報」第6号 1998年
- 19 「『屋根の上のサワン』の指導に向けて」 小樽商科大学「人文研究」第96輯 1998年
- 20 「『牛街』を訪ねて」 小樽商科大学「言語センター広報」第7号 1999年

- 21 「中国での語文教育」 小樽商科大学「人文研究」第99輯 2000年
- 22 「異なるものへの意欲」 小樽商科大学「言語センター広報」第8号 2000年
- 23 「『驢馬の声』の叫び」 「21世紀を迎える日本学国際シンポジウム論文集」  
2000年
- 24 「教材になっている『裸の王様』」 小樽商科大学「人文研究」第101輯 2001年
- 25 「Freedom」 小樽商科大学「言語センター広報」第11号 2003年
- 26 「SCSを活用した日米合同授業—米国William & Mary大学で」 小樽商科大学「人  
文研究」第105輯 2003年
- 27 「米国の日本語教育」 小樽商科大学「言語センター広報」第12号 2004年
- 28 「私の旅から」 小樽商科大学「言語センター広報」第13号 2005年
- 29 「相互の立場では」 小樽商科大学「言語センター広報」第14号 2006年
- 30 「『背影』に流す涙」 小樽商科大学「人文研究」第115輯 2008年
- 31 「私の『おくりびと』—父を葬る」 小樽商科大学「言語センター広報」第18号  
2010年
- 32 「『会見』をめぐるメディア表現から中国の外交心理変化の一端を見る その1『会  
見』の定義と使用パターン」 小樽商科大学「人文研究」第120輯 2010年
- 33 「『会見』をめぐるメディア表現から中国の外交心理変化の一端を見る その2 事  
例調査及びその分析」 小樽商科大学「人文研究」第122輯 2011年
- 34 「中国語教師研修プログラムに参加して」 小樽商科大学「言語センター広報」第  
21号 2013年
- 35 「『和』の来た道」 小樽商科大学「人文研究」第126輯 2013年

## 教科書

- 1 「中国語の香り 1」(共著) 同学社 2016年
- 2 「中国語の香り 2」(共著) 同学社 2016年
- 3 「中国語の香り 講読編」 同学社 2016年

## 翻 訳

- 1 「新聞の牙」(松本清張著) 「紅岩」(中国, 共訳) 1983年
- 2 「中国のソ連研究——歴史・研究組織・主要課題(陸南泉著)」 「ソ連研究」第  
5号 1987年

## その他

- 1 「訪日随筆」 『長江日報』(中国) 1979年
- 2 「留学の地・札幌と私」 『北海道新聞』(30回連載) 1987.1.5-2.10
- 3 「朝の食卓」 『北海道新聞』(月に1回ぐらいの執筆) 1988.1-90.12
- 4 「中日不再戦を誓う—『迷路』を読んで」 大分県・岩波書店 昭和63年度野上弥  
生子賞読書感想文全国コンクール「入選作品集」 1988年

**学会発表**

- 1 「中国の教育事情について」 第31回岩見沢市教育研究大会 1988年
- 2 「井伏文学の曖昧について」 第34回北海道教育学会研究発表大会 1989年
- 3 「井伏鱒二の作品分析—エンブソンの理論にもとづいて—」 第11回教育方法学研究集会 1990年
- 4 「表現課題方式による『蜜柑』（芥川龍之介）の読解」 第38回北海道教育学会研究発表大会 1994年
- 5 「『驢馬の声』の叫び」 21世紀を迎える日本学国際シンポジウム 1999年